

会員のひろば

題字：長塩三枝子

◇今号も大変興味深く拝読しました。『育ちと学び』で私が特に気に入っているところは、硬と軟、課題追求と希望提示といった、対極の要素を持った記事の数々で編集されていることです。No. 57でいえば、硬Ⅱ『処理水』

問題は未来の世代に禍根を残す』、軟Ⅱ『今時の定年退職』、課題追求Ⅱ『「全国学力・学習状況調査」を考える』、

希望提示Ⅱ『「食」に「芸能」に若いエネルギーを燃やす 勢多農林高校の生徒たち』、『原水爆禁止世界大会 in 長崎に参加して』といった混合がこの冊子をカラフルなものにしています。

確かに教育現場、それを取り巻く状況には、課題、課題、課題が何重にも張りめぐらされているものと思います。それらを知ることがとても重要なことで私も知りたいと思っていますが、やはりそればかりでは疲れてしまいます。課題を提示・追求する記事を読みながら、その存在を認識し、自分でも考えることでエネルギーを使っているところに、例えば『原水爆禁止世界大会 in 長崎に参加して』の記事に触れると、「立派な考えをもち行動する高校生もいるものだ。なんか未来は明るいな」と希望を感じます。

そして、「よし、もう少し深く考えてみよう」と奮い立たされたりします。『育ちと学び』を読み終えた時のある種の爽やかさは、そんな対極の要素をもつ記事の数々による編集の賜物ではないかと思えます。そのような巧みな誌面編集を毎号楽しませていただいています。

先日、3歳になる娘用に「20歳になるまでに聴いてほしい曲30選」のリストを作っていました。真っ先に思い付いた曲が、フォーククルセダーズの「悲しくてやりきれない」でした。「スクールカウンセラーだより」に掲載されていた「悲しくてやりきれない」の歌詞をじっくり読み、「娘にはこの歌詞を聞いて、読んで、何かしらの感情を揺り動かされる感受性を持った人になってほしいなあ」と思いました。

高崎市 成瀬 雅俊

◇二〇一四年五月から一九年一〇月まで、十日町市浦田に住みました。かつての生徒だったおじさん、おねえさんたちと小さな田んぼをつくりました。九枚の小さな棚田つくったけれど、そのうち八枚は荒れました。

浦田の隣に松之山水梨という現在二〇戸（三〇人）の集落があります。そこにかつての生徒だった二九歳のおねえさんが、地域起こし協力隊のインターンとして、今暮っています。地域の見守りをしながら、一九八八年に廃校となっ

た三省小学校を改築した三省ハウスという宿泊施設の活用法を考えたりしています。四月から協力隊員になって三年間活動したいようです。でも隊員期間が終了したら定住する見通しを説明しないと採用されないようです。どうやって生活できるだけの仕事を見つめるのか？お金と交換できる仕事じゃないと、仕事とは言わないでしょうか。

伊勢崎市 船橋 聖一

◇（新会員からのお葉書）

フォーラム会費三千円をお送りします。よろしくお願いいたします。

あれだけの内容を、五十号号続けるのは大変なことです。楽しみに読ませて頂きます。

しみじみと愛しかりけりきびきびと

朝を行くランドセルの児らの

真中を歩く枯葉の色のカマキリを

導きやりたり路傍の草に

八王子市 加藤 淳子

